

巻頭言

製鋼，環境活動特集によせて



野村一朗*

「電気製鋼」は、前号より当社の技術論文誌として再スタートいたしました。特殊鋼技術の普及を目指す「電気製鋼」の伝統を継承しつつ、より幅広い分野から情報発信、技術発信し、21世紀社会に貢献することが期待されます。

21世紀は、地球温暖化に代表される地球規模での環境課題を、人類が克服した世紀として歴史に記録されるか否か、今世紀の前半における人類の行動にかかっているとされています。本年12月には、コペンハーゲンにてCOP15が開催予定であり、国際的に真剣な議論がなされることと思われま

す。ポスト京都の温室効果ガス削減目標が、どのような値になろうとも、省エネルギー・省資源を切り口とした技術開発は、資源小国である日本にとって、ますます得意分野でありつづけなければなりません。技術開発に裏打ちされた日本のモノづくり力は、特に発展途上国からは注目されているところですが、吸収されるばかりでジリ貧にならぬよう、常に最高の技術を目指す姿勢を失わないことが我々の使命であり、日本が生きる道です。

今号の「電気製鋼」は、製鋼、環境活動特集として、特殊鋼製造におけるCO₂排出削減技術、省資源技術について、さらに国内では初の本格的実証機が本年2月より発電を開始した、集光式太陽光発電を紹介しています。技術資料で紹介されている環境分野における実施例では、国内にとどまらずグローバルに基本技術を探索し、その技術に磨きをかけるとともに独自の開発を加えて普及を目指しています。より資源効率の高い製造技術の普及は、企業競争力を高めるだけでなく地球環境の保全に貢献するものとして期待されます。

世界同時不況の厳しい経済環境が続いていますが、時代のニーズであるエコロジーとエコノミーを両立したハイブリッド車は売れています。特殊鋼をはじめとする製品開発の分野では、今後とも時代の変化をいち早く捉えたオンリーワン技術を追求し開発・普及に注力することで、環境負荷の軽減に、より大きく貢献できることと確信しています。

技術広報誌としての役目も期待されている「電気製鋼」の発展が、21世紀社会の持続的発展を可能とし地球環境を次世代に引き継いでいくための一助となることを強く希望します。

* 大同特殊鋼(株)技術部環境エネルギー室室長